

# バイオマスタウン構想分析DB

[【リンク】紫波町バイオマスタウン構想](#)

公表回	公表年月日	構想見直し		都道府県名	市町村名	人口 (人)	面積 (km <sup>2</sup> )
		公表回	公表年月日				
11	2006.3.31			岩手県	紫波町	34,568	239.03
構想の要約		紫波の今の環境を保全し、創造し、100年後の子どもたちにより良い姿で引き継いでいくため、家畜排せつ物・食品残さ等の堆肥化、間伐材・製材残材等の炭化・木質ペレット化、廃食用油のBDF化等に取り組み、資源を有効活用する資源循環のまちづくりを実現する。					
構想に盛り込まれた事業		① 有機資源循環と循環農業の確立 ・コンポスト化 ② 森林資源循環と林業の再生 ・未利用資源の活用、粉炭生産、木質ペレット生産 ③ バイオマス燃料活用システムの構築 ・廃食用油精製事業					
バイオマス利活用目標		添付別紙参照					
バイオマスタウン構想概要図		添付別紙参照					

利用するバイオマス					
廃棄物系バイオマス		未利用バイオマス		資源作物	
家畜排せつ物	○	稲わら・もみがらなど	○	資源作物	
農業系廃棄物(廃菌床など)		野菜等非食部			
食品廃棄物	○	間伐材・林地残材	○		
廃食用油	○	果樹剪定枝			
水産加工残さ		竹材			
製材工場等残材	○	その他( )			
建設発生木材					
街路樹・公園・家庭剪定枝、刈草	○				
古紙・廃棄紙					
下水汚泥など	○				
その他( )					

利用するバイオマス変換技術			
マテリアル利用のための変換技術		エネルギー利用のための変換技術	
堆肥化(土壌改良材・肥料を含む)	○	バイオガス化(メタン発酵)	
飼料化	○	直接燃焼	
バイオマスプラスチック製造		ガス化	
その他( )		炭化	○
		固形燃料化(チップ・ペレット・RDFなど)	○
		バイオディーゼル燃料化	○
		バイオエタノール化	
		その他( )	

バイオマスタウン実現に向けた取組の進捗状況	
記入年月日	記事

実現した事業	添付別紙参照
--------	--------

## バイオマス利活用目標

(バイオマスタウン構想書からコピー)

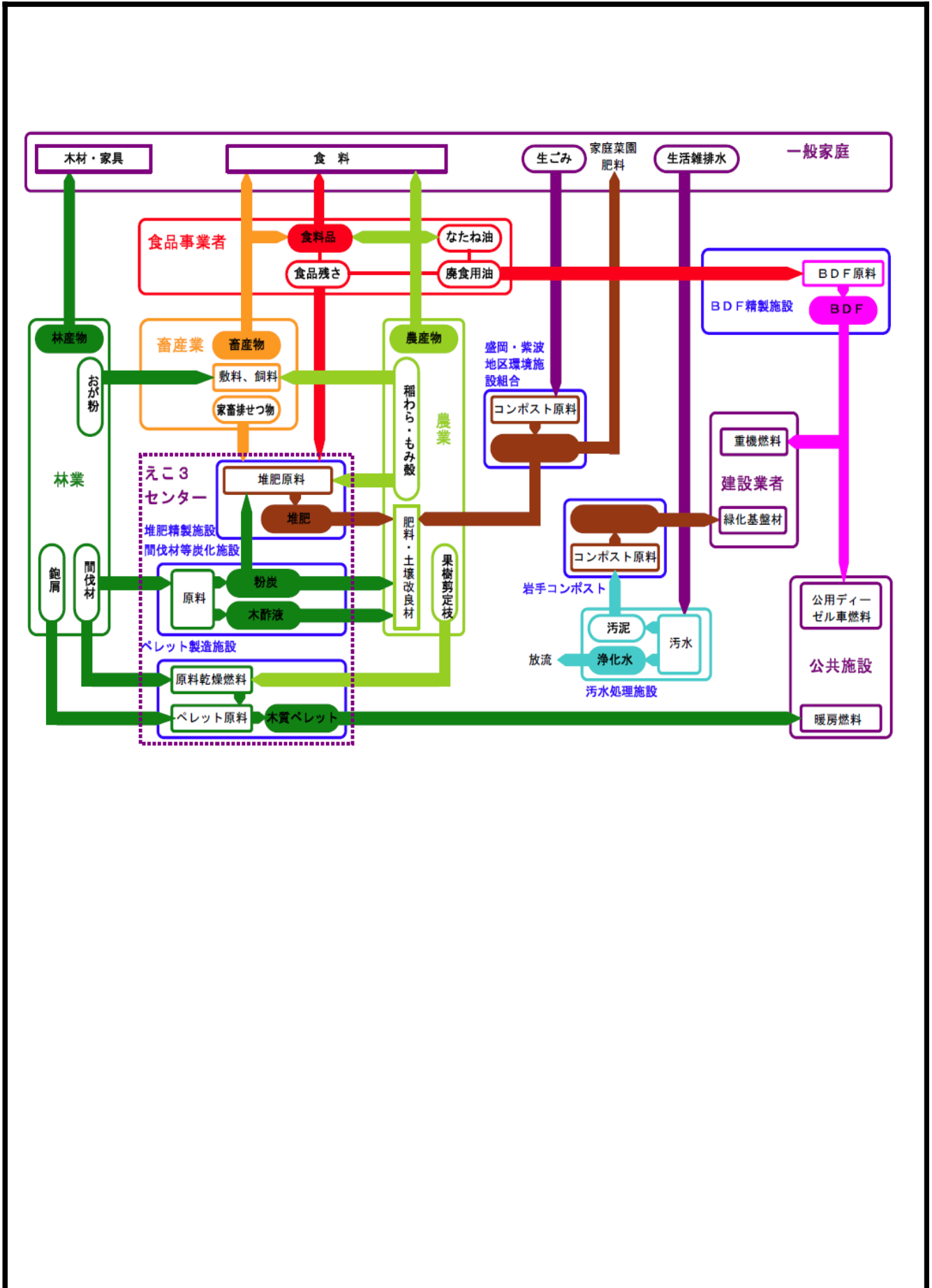
	現状 (平成 16 年度)	目標年度 (平成 22 年度)
廃棄物系バイオマス	発生量 52,912 トン	発生量 56,339 トン
	利用率 91.5% (炭素換算)	利用率 97.0% (炭素換算)
未利用バイオマス	発生量 27,457 トン	発生量 27,657 トン
	利用率 43.2% (炭素換算)	利用率 51.7% (炭素換算)

廃棄物系バイオマスについては、現在の利用率(炭素量換算)が91.5%ですが、循環拠点施設「エコ3センター」において、家畜排せつ物・事業系食品残さの堆肥化を一層推進するとともに、現在利用率の低い廃食用油のBDF化や農集排・浄化槽汚泥のコンポスト化による有効活用の検討を行い、利用率97.0%を目指します

未利用バイオマスについては、現在の利用率(炭素量換算)が43.2%ですが、循環拠点施設「エコ3センター」において、現在未利用である林地残材の炭化・ペレット化を推進するとともに、現在殆どが農地へのすき込みとなっている稲わらについて、堆肥化による有効活用の検討を行い、利用率51.7%を目指します。

# バイオマスタウン構想概要図

(バイオマスタウン構想書からコピー)



## 実現した事業(その1)

事業の名称	
事業者名	
事業所名	
住所(施設の所在地)	
利用するバイオマス	
利用する変換技術	

事業の概要	<p>添付別紙(パンフレット等)参照</p> <p>(事業形態、事業構成メンバー、出資比率、事業開始時期、施設の概要、プラントメーカー、建設業者、イニシャルコスト、ランニングコスト、原料単価、製品単価、経営状況、事業運営の課題、成功・失敗要因など記入)</p>
-------	--